

専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充(シ06)

目的 当研究所が行う文化財の調査・研究の成果を集約するとともに、専門性の高い資料や情報を蓄積・整理する。併せてデータベースの継続的拡充を行い、資料閲覧室を窓口にして文化財に関する総合的レファレンスを充実させる。

成果 1. アーカイブズ・ワーキンググループ協議会の開催

全所的文化財情報を発信するため 概ね4半期ごとにアーカイブズ・ワーキンググループ協議会を開催した(2017(平成29)年5月31日、6月29日、9月22日、2018(平成30)年3月23日)。「研究情報の保存・開示に関する基準」についての所内ガイドラインを策定・実施して、適切な研究データ管理を推進すると同時に、成果公開のための情報の標準化・規格化を進めた。

2. 刊行物アーカイブズ・システムを運用・評価し、継続的・安定的な研究情報の蓄積・公開を推進した。

3. 資料閲覧室のレファレンス機能の拡充

当研究所無形文化遺産部が所蔵する音声映像資料を、資料閲覧室で視聴に対応するよう環境を整えると同時に、『音盤目録』7巻分の全文PDFを公開した。

4. 明治・大正期刊行の雑誌類等資料のデジタル化推進

・当研究所及び東京美術倶楽部所蔵の『売立目録』について、掲載内容が画像ともども検索できるシステム改良を行い、併行して掲載内容のデータ入力を進めた。

・当研究所の所蔵する近現代の美術作品カード(絵葉書資料)のデータ入力を進め、公開のための準備を行った。

5. 研究成果の公開・美術資料のデータ化

サントリー美術館所蔵「四季花鳥図屏風」「泰西王侯騎馬図屏風」、徳川美術館所蔵「源氏物語絵巻」に関するデジタルコンテンツ等を作成し、所内公開を行った。



サントリー美術館所蔵・四季花鳥図屏風のデジタルコンテンツ トップ画面

閲覧室事業の運営

1. 年度内資料受け入れ数

和漢書3,066件、洋書121件、展覧会図録・報告書等1,374件、雑誌3,846件(合計8,407件)

2. 年度内閲覧室利用状況

公開日総数137日・年間利用者合計931人

論文・佐野千絵、橘川英規「電動集密書架の定期的散開による環境制御効果の検討」『保存科学』57 pp.145-157 18.3

研究組織

○江村知子、橘川英規、安永拓世、津田徹英、二神葉子、小山田智寛、小林公治、塩谷純、小林達朗、小野真由美、城野誠治(以上、文化財情報資料部)、久保田裕道(無形文化遺産部、文化財情報資料部兼務)、吉田直人(保存科学研究センター、文化財情報資料部兼務、加藤雅人(文化遺産国際協力センター、文化財情報資料部兼務)、永崎研宣(客員研究員)